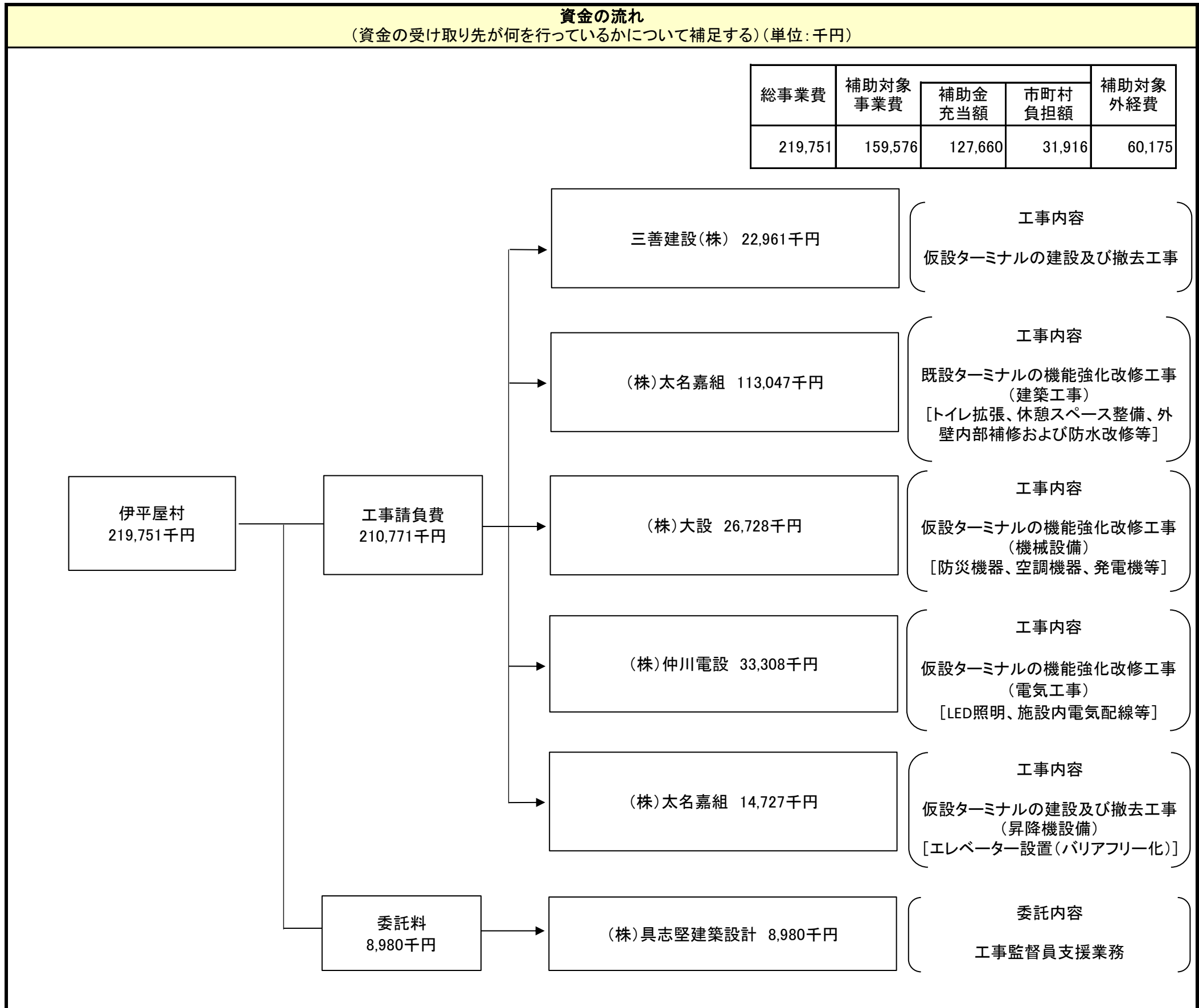


市町村名	伊平屋村					
令和4年度(事故繰越)沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート						
事業名	前泊港ポートターミナル安心・安全向上事業	事業類型	<input type="checkbox"/> 産業振興 <input type="checkbox"/> 定住促進 <input checked="" type="checkbox"/> その他			
担当部課名	建設課	現年事業または繰越事業	<input type="checkbox"/> 現年事業 <input checked="" type="checkbox"/> 繰越事業			
事業内容	観光客等を中心とするフェリー利用者が施設内で安心・安全・快適に過ごせるよう休憩スペースやバリアフリー化などのほか、非常用発電設備等を追加し、施設の機能向上を図ることで、コロナ禍以前の入域観光客数への確実な回復を促進する。					
先導性等に係る取組	<input type="checkbox"/> 自立性 <input type="checkbox"/> 官民協働 <input checked="" type="checkbox"/> 離島地域特有の条件不利性に起因するもの	<input type="checkbox"/> 政策間連携 <input type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> その他			
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和6年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R4年度(繰越)	R4年度(事故繰越)	年度	年度
	当初予算額	300,428	0	0		
	増減額	0	0	0		
	予算現額	300,428	0	0		
	前年度から繰越	0	261,356	159,906		
	翌年度へ繰越	261,356	159,906	0		
	計(A)	39,072	101,450	159,906		
	執行済額(B)	39,072	101,450	159,576		
	うち補助金充当額	31,257	81,160	127,660		
	不用額	0	0	330		
執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.8%			
予算の状況の説明	当初計画では令和5年3月に完了見込みとしていたが、仮設ターミナルの実設計にて建築確認申請後に設計変更が必要となり約6ヶ月の遅延が発生し、翌年度(令和5年度)へ繰越し実施することとなった。また、繰越後の翌年度においても、能登半島地震の被災地復旧に伴う影響で電線ケーブル等資材が全国的に不足し、資材調達に不測の日数を要したことさらに翌年度(令和6年度)へ繰越し実施することとなった。事故繰越後の予算執行については、概ね計画通り執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況				
		R4年度	R5年度(繰越)	R6年度(事故繰越)	年度	年度
	機能強化工事	目標 実績	1 0	1 0	1 1	
達成状況説明	○仮設建設工事では、工事発注前の建築確認において設計変更が必要となり約6ヶ月の遅延が発生した。この影響で工事発注が遅れ、翌年度へ繰越すこととなり、令和5年4月に設置完了となった。 ○機能強化工事では、仮設工事の遅れにより当該工事の発注も遅れ翌年度へ繰越すこととなった。また、翌年度に発生した台風6号の影響により9日間の停電に見舞われ、発電機関係の電気供給機能の脆弱性が露呈したことで、発電機関係の設計見直しを行う必要が生じたこと、さらに、入札不調・不落が続き契約までに不測の日数を要したことや、工事発注後も能登半島地震の被災地復旧の影響を受け資材調達が困難な状況となったことで計10ヶ月の遅延が発生し、翌々年度へ事故繰越しを行うこととなり、令和6年7月の完了となった。 ○監理業務も上記工事の遅れに伴い、完了が令和6年7月となった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)	基準値 (H30~R2年度)	年度	年度	年度	後年度目標値 (R6年度)
	入域観光客数	目標	-	-	-	21,000人以上
		実績	19,155人	-	-	-
	成果目標(指標)	基準値 (年度)	年度	年度	年度	後年度目標値 (年度)
		目標	-	-		
実績		-	-			
進捗状況説明	島の玄関口として観光客など島を訪れるほとんどの方が利用する当施設の利便性の向上を図ることで、コロナ禍以前の入域観光客数への確実な回復を促進することを旨し入域観光客数の目標値を21,000人以上と設定したが、目標を上回る22,569人の入域観光客数となった。よって達成率は107%である。					

取組の検証	成果目標に対する原因・要因分析	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○利用者が施設内で安心安全快適に過ごせるよう休憩スペース、トイレ、バリアフリー化など利便性が向上されたことで、観光客の滞在期間中の満足度向上に繋がり、入域観光客数の回復に寄与したと考える。</p>	<p>○当施設の利用満足度等について、継続して聞き取りを行う事で、満足度の向上を図る。</p> <p>○施設利用者より、休憩スペースや施設内において島内飲食店の詳細情報や観光地、土産品等についての情報発信を行ってほしいとの要望が上がっている。特に村内来島者時に飲食店が閉店している箇所が多く、開店している店舗を探すのに苦労したとの声が多く上がっていることから、更なる情報発信の機能強化として、飲食店等の詳細情報の発信等をターミナル内にて行えるよう検討する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>○今後アンケート調査等を実施し、施設のあり方について引き続き検討を行う。</p> <p>○商工会および飲食・サービス業者と協議協力し、飲食店やサービス業の営業状況などの詳細情報を発信できるよう取り組む。</p>		



資金の流れ、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託・工事受託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模については、不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。